

保育通信「保育園での食育実践講座」Web研修
体と心の健康・地域の食文化・災害時の対応

新型コロナウイルス感染拡大を防ぎながら実践する 保育施設の給食・食事・食育



大学院学校教育研究科 臨床・健康教育学系
学校教育専攻 発達支援教育コース 学校ヘルスケア領域
健康教育研究センター長（兼任）
保健管理センター（兼任）

教授（学長補佐） 野口孝則 (noguchi@juen.ac.jp)

管理栄養士、臨床検査技師、京都大学博士（人間・環境学）

よろしく
お願いします！



Web研修の内容

Web研修開催挨拶

- ・ 簡単な自己紹介
- ・ Web研修開催の経緯

1、新型コロナウイルスを正しく理解する

- ・ 正確かつ信頼のおける情報へのアクセスを確保する
- ・ 自然災害発生時と同様に日々の対応を記録しておく

2、職員の安全を確保する

- ・ 何よりも職員の安全を確保すること
- ・ 感染拡大防止対策とともに職員のメンタルケアを

3、給食・食事の衛生管理と新型コロナ対策

- ・ 保育園給食（食事）の衛生管理
- ・ 保育室における食事の時間の対応

4、保護者との共通理解を図る

- ・ 日本国民全員が実践していくべき「新しい生活様式」
- ・ さらに保育園発信型の情報提供を～新型コロナ時代の食育～

5、自治体との連携こそ”密”に行う

- ・ 自治体担当者との共通理解を深めるために
- ・ 新型コロナウイルスはほぼ全ての業種に影響を及ぼす
柔軟に対応出来る体と心を育む
- ・ 感染症対策は科学で考え、政治が判断をする
- ・ 正しく怖がることの大切さ

6、新型コロナ対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

- ・ 今できることの検討（実現可能性）
- ・ 今やるべきことの検討（必然性）
- ・ すべては子どもたちのために

挨拶・自己紹介

野口孝則（のぐち・たかのり） 上越教育大学大学院・教授

・学歴

1973年 福島県会津生まれ

1996年 神戸学院大学栄養学部卒業（管理栄養士、臨床検査技師）。

2001年 京都大学大学院人間・環境学研究科文化・地域環境学専攻修了。 京都大学博士（人間・環境学）

・職歴

2001年 理化学研究所脳科学総合研究センター 研究員

2001年 理化学研究所 基礎科学特別研究員

2003年 神戸学院大学栄養学部 講師

2007年 福岡女子大学人間環境学部 准教授

2010年 厚生労働省健康局（老健局併任）栄養管理係長

2011年 帝塚山大学現代生活学部 准教授

2015年 上越教育大学大学院学校教育研究科 教授

（2017年保健管理センター兼務、2019年学長補佐を兼務、2020年健康教育研究センター長を兼務）

挨拶・研究紹介

野口孝則研究室ですすめている研究課題 「保健・医療・福祉・教育における実践栄養学」

- ・ 学校や保育における食育の計画・実施・評価・改善
- ・ ライフステージに応じた健康づくり活動・食育
- ・ 医療や介護の栄養管理と食事サービスの機能的な連携
- ・ 健康増進と地域活性化の両立を目指した食育
- ・ 循環器疾患・脳神経疾患の予防・治療に関する研究
- ・ 食育と防災（日常と非日常の境界、命をつなぐ食事）
- ・ 美味しさと健康について

保育・教育をはじめ医療・介護の現場における食教育（食育）の必要性や有効性に関する最新の情報を解析し、家庭や地域と連携した実践的な食育の展開について教育・研究を行っている。
生涯の研究テーマは「美味しさを感じることは健康につながる」

Web研修開催の経緯

保育通信誌面において、2017年4月から毎月連載中

「保育園での食育実践講座」体と心の健康・地域の食文化・災害時の対応



新型コロナウイルスを正しく理解する

新型コロナウイルスの感染拡大を防止すること

今回のような感染症の拡大は昔から不定期に人間社会を脅かすものとして認知されてきましたが、少なくとも日本をはじめとする先進諸国においては、現状は衛生環境も整って医学研究や医療技術が進歩している文明社会が発展していますので、感染症の脅威から守られていると思っていました。

しかし、このようにいとも簡単に新型コロナウイルスのほう人間社会に浸透し、普通の人間の姿で多くの人間と接触しながら増殖し続けているという、これまで私たちが生きてきた世界では体験したことのない出来事との遭遇であり、大きな恐怖を感じます。

だからこそ、大切なことは、この新型コロナウイルスの特徴を知り、考えうる対応を実施していきながら、効果的な治療薬やワクチンが開発されて接種されるまでの間は、これ以上感染を拡大させないために国民全員で一体となって感染症対策に取り組むことしかありません。

そして私たち「人間としての営み」を継続することが大切です

新型コロナウイルスを正しく理解する

新型コロナウイルスの現状

- 日々、状況が変化している
- 感染者数の増減に伴って政府や自治体からの対処方針や宣言がめまぐるしく変化する
- 医療従事者の努力とともに医学や生物学の研究者による解析が進行中
- 多くの感染者から得られる情報が蓄積されている
- 科学的根拠に基づく新たな対策が可能になることに期待する

保育園における対策の第一歩は「新型コロナウイルス感染症に関する最新の情報」を得ること

このような緊急事態の際に大切なことは、
公的な機関・組織などの「信頼が出来る情報源」からの情報をできるだけ直接的に受け取ること

正確かつ信頼のおける情報へのアクセスを確保する

【毎日朝・夕の2回確認したいホームページ】

- 保育所等における新型コロナウイルス対応関連情報（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09762.html

【全国私立保育園連盟HP：厚生労働省の情報を的確にトピックスとして発信】

<http://www.zenshihoren.or.jp/>

【必要に応じて確認すべき情報源】

- 新型コロナウイルス感染症に備えて～1人ひとりができる対策を知っておこう～（首相官邸）
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/coronavirus.html>
- 新型コロナウイルス感染症対策（内閣官房）
<https://corona.go.jp/>
- 新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html
- 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html#coronavirus007

新しい更新内容を
知るためにはSNSの
活用がオススメ！



自然災害発生時と同様に日々の対応を記録する

その時の状況、気づき、判断、結果、その後の評価・検証などを随時記録

今回の新型コロナウイルス感染症対策は、準備が十分に出来ていないところに急遽やってきた大災害と考えるべきです。地震、津波、台風、集中豪雨のような災害時と同様に、迅速な対応が求められるとともに、その日、その時の判断を後日振り返ることが出来るように、気付いたことをメモに残し、1日の振り返りの際には情報共有事項として記録を残しておくべきです。

日々変化する状況であり、目に見えないウイルス対策だからこそ、その時の状況、気づき、判断、結果、その後の評価・検証などを随時記録がとれるよう、施設長や主任保育士の皆様には特に意識を高めていただきたいと思います。

そして、1週間、1か月、数ヶ月、1年と経過していく中で、どのような対応が適切であったのかを評価する時が必ずやってきます。蓄積された記録からの議論・評価は、必ず次に活かすことが出来ます。

「毎日の目の前の仕事で精一杯」という言葉が出てしまうぐらい大変なことは十分に理解したうえで、あえて私からお伝えするのは、記録と評価からの改善の積み重ねの大切さです。そしていつか落ち着いた時でかまいませんので、それらの各園の記録と評価と改善記録を持ち寄り、研修や研究を行いながら、感染症対策の知識や手法を「保育園の現場から積み上げて発信する」ことを望みます。